

地域リハ OT 便り vol.13

令和 5 年

3 月

地域リハビリテーション部では、年に数回地域リハ OT 便りを作成しています。今回は、認知症とともに班の活動の一つである認知症フレンドリー社会に向けて取り組んでいる「スローショッピング」や「OT の役割」について紹介したいと思います。

認知症とともに班 大西里奈、伊藤航平、佐野佑樹

【認知症フレンドリー社会とは？】

「認知症の人がごく少数で特別な時代だった社会から、高齢化が進み認知症の人が“普通”にいる社会へ移行するなかで、認知症の人や家族ではなく社会の側こそが変わらないといけないという課題意識を反映した言葉」です。私たちの生活を取りまく法律や制度、企業活動などはすべて、認知症の人や高齢者がこれだけ多くなる前につくられたものです。これからは、多くの人が人生の後半で認知症とともに生きるステージを経験するため、社会から排除されずに、地域住民として、消費者として、普通に暮らしていくことができるような社会はどのようなものなのか。社会をアップデートしていく視点をもとに、認知症とともに班では「**買い物**」に焦点を当て、**伊勢市**と**鈴鹿市**で取り組んでいる「**スローショッピング**」に OT として参加・観察評価などの役割を担い可能性を感じたため、紹介します。

【スローショッピングとは？】

買い物は、自分で欲しいものを選び購入する楽しみ、誰かのために買っていきたい・調理したいなどの役割・やりがい、また友人や知人と出会い・集う機会となる居場所など、一人ひとりニーズがある大切な作業です。しかし、認知症になったことで買い物に行く機会が減った 67.8%¹⁾、認知症の人の声では「買い物をする時に、どこにどの商品があるのかわからなくなる」「大きな店では店内で迷う」「精算をする際にお金の計算に時間がかかってしまう」²⁾などの課題が出てきます。それらの課題に対し、たとえ認知症になったとしても買い物を楽しく継続できるよう、**買い物サポーター**とともに買い物ができたり、ゆっくりお金を払うことができる**スローレジ**など、スローショッピングの取組³⁾が日本で始まっています。

認知症の人の買い物事情

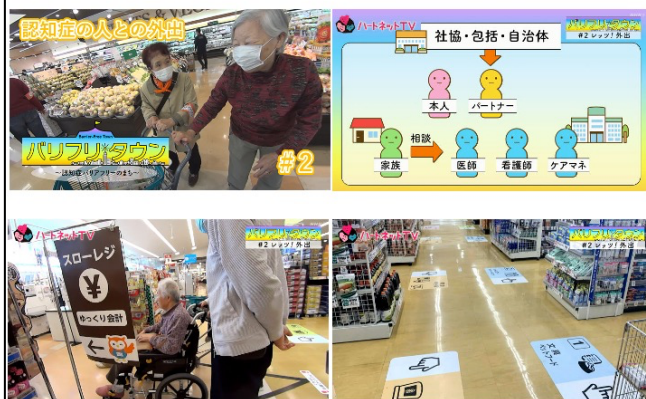


●当事者の声

「どこにどの商品があるのかわからなくなる」「大きな店では店内で迷う」
「精算をする際にお金の計算に時間がかかってしまう」

2) 徳田城人：認知症フレンドリー社会。岩瀬新書（2018）。

岩手県滝沢市のスローショッピングの取組



3) NHKハートネット。認知症とともに生きるまちを行く。楽しく買い物「スローショッピング」。



【伊勢市のスローショッピングの取組】



伊勢市では、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができ、焦らず買い物を楽しみ、外出機会を増やすという目的で「スローショッピング事業」を開催しています。今回伊勢市役所福祉生活相談センター、伊勢志摩区域連携型認知症疾患医療センターが主催する「伊勢市スローショッピング」がイオンタウン伊勢ララパークで開催され、ボランティアとして OT4 名が参加させていただきました。その中で、OTは「認知症に対する生活行為工程分析表（以下、PADA-D）」を用いて当事者の買い物に対し観察評価を行い、買い物終了後に当事者家族に対し「買い物動作の中でできた事、サポートがあればできたこと」などのフィードバックを行いました。家族からは「こんなことができるなんて知らなかった」、「また参加したい」などの感想があり、当事者も「（握手され）買い物できて楽しかった」という感想を頂きました。

スローショッピングの中で PADA-D を用いたことにより、当事者の「できること」を探し、できないことに対し「どんなサポートが必要か」を把握することが出来たことにより、当事者の能力を活かし、「その人らしい買い物」に繋げることができたのではないかと感じています。今後もこのような活動が広まるよう、これからも OT が出来る事を見つけ、活動に関わっていきたいと思います。



項目	内容	評価項目	評価
1. 店に入る	店に入る	店に入る	○
2. 店員と挨拶	店員と挨拶	店員と挨拶	○
3. 商品を選ぶ	商品を選ぶ	商品を選ぶ	○
4. 商品を支払う	商品を支払う	商品を支払う	○
5. 店を出る	店を出る	店を出る	○

※PADA-D：本来は当事者1人の買い物時の評価方法ですが、今回は安心感と楽しみ、工程別にどのようなサポートが必要か評価するため、サポーターとの買い物時を評価した



【鈴鹿市のスローショッピングの取組】



鈴鹿市では令和3年度の鈴鹿市認知症連絡会にて、OTから「認知症の人の買い物における課題とニーズ、スローショッピングの取組」を提案したところ賛同が得られたため、マックスバリュ岡田店、当事者団体、認知症ボランティア、チームオレンジ、認知症地域支援推進員、鈴鹿市と協働し、令和4年7月からスローショッピングを開始しました。流れは下記の①～⑤で、当事者「自分でお金を払って買い物したのが久しぶりで楽しかった」、岡田店スタッフ「最初は仕事が増えると思っていたが、普段通りの仕事をすればいいのだ」と意識の変化も見られています。当事者の視点や PADA-D の結果から環境の工夫に繋げ、より買い物が楽しくできる場をつくっていくとともに、買い物サポーターの仲間づくりと育成、協働していただける店舗の拡大を図っています。OTの強みは、当事者のニーズ把握や工程別にできる・苦手な部分のサポート方法を評価でき、その思いを行政や他団体に伝え、まちづくりに繋げることができる専門職だと思います。

ワクワク感・win-winな関係・
対話と実践を重ねるを大切に

マックスバリュ岡田店
×
鈴鹿市認知症連絡会
令和4年7月～
毎月第2金曜日 14-16時

鈴鹿市 初
認知症フレンドリーシティ 鈴鹿

スローショッピング

「自分でお金を払って、買い物したい！けれど一人でではちょっと不安だなー」と思ったことはありませんか？認知症とともにならざるを得ない方が、楽しく・ゆとり・安心して買い物できるように、鈴鹿市で初めてマックスバリュ岡田店にて、スローショッピングの取組を行います。お気軽に参加してください。

日時 毎月第2金曜日 14:00～16:00
場所 マックスバリュ岡田店（おまいやリフレ店隣）
定員 5名程度（先着順）
対象者 認知症の方やそのご家族
開催場所まで送られる方
申込み期間 毎月17日～月末
申込み先 中部認知症地域支援推進員
☎059-367-7770（平日8:30～17:15）
※お問い合わせは必ず「認知症」を明記してください。

【事務局】鈴鹿市認知症連絡会（鈴鹿市民生社会課 地域福祉課）
☎059-362-3666

スローショッピングの流れ

①自己紹介・アイスブレイク
（関係性と雰囲気づくり）

②趣旨説明・ペア決め
（共感を大切に）

③メモを見て
サポーターと買い物

④おもしろレジ
（ゆとりで焦らずお金を払える）

⑤おもしろカフェ・振り返り会
（楽しみ・つながり・情報交換）